

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2004.8.15 No.5

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 雑草いろいろ…

小泉首相が国会で「人生いろいろ、会社いろいろ…」と述べたことが、先般の参議院選挙の結果に少なからぬ影響を与えたとテレビでの解説がありました。今回は物議をかもさぬ程度に「雑草いろいろ」の表題で雑草について調べてみました。

夏のこの時期、庭にも家庭菜園にも道端にも、そして公園内のあちこちに「雑草」との一言で片付けられている一群がわがもの顔で繁茂しています。

雑草について「広辞苑」を調べると「自然に生えるいろいろな草。また、農耕地で目的の栽培植物以外に生える草」とあります。世界大百科事典（平凡社）には「一般には見栄えのしない雑多な草をいい、農業上では有害な草、その土地においてまかれた以外のじゃまな草、利益より害が大きく、欲しくない場所に現れる習性のある草、田畠に自生して直接・間接に作物を害する草などのように害草として定義されている…」とあります。また、農学上では「作物と競り合う草」と定義されています。

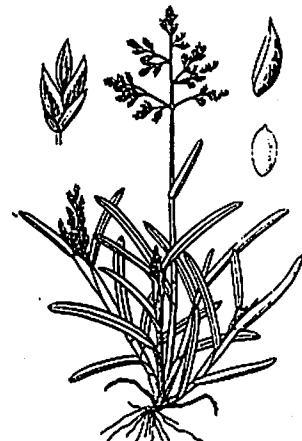
のことから、雑草とは私たち人間の豊かな食生活を阻む憎き植物となるわけですが、農作物を阻害しない草までも雑草としてみているようです。

作物を作るということは、一定の時期土を耕し、作物はその環境で育ちますが、そこには作物と競り合いながら生活する植物がうまれ、それが雑草とよばれるようになりました。また、人間の世話を受けず作物との競合もせず環境に順応してきた植物もまた雑草と言わってきたのでしょう。

メヒシバ、ニワホコリ、スズメノカタビラ、エノコログサなどは、田畠の雑穀と競い合って進化してきたイネ科の植物です。また、春には野草として見ていたヒメジオンやノゲシなどは夏のこの時期、花をつけ我がもの顔で成長していく、困った雑草になっています。

「雑草のようにたくましく」、「雑草をみならって」などということばがありますが、踏まれても抜かれても伸びてくる雑草に敬意をはらい、改めてこれらの植物を観察してみましょう。

(図 牧野新日本植物図鑑より)



スズメノカタビラ

## 9月の観察会は？

秋の気配が漂ってきました。さわやかな秋風を体に受け、樹木や野草の果実を観察します。キノコも顔をだしていることでしょう。夏鳥たちも南へ渡る時期です。木々の合間から野鳥の観察もしてみましょう。

・9月の森の観察会 9月16日(木) 10:15~12:00 森の自然教室に集合です。

## エゾゼミとコエゾゼミ

森の中のセミの鳴き声は、夏本番の雰囲気がただよいります。特に、今年の暑さの中では出番を謳歌しているかのような鳴き声です。初夏の6月にもうるさいぐらい鳴いていたセミと今鳴いているセミは種類がちがいます。

5・6月に鳴いていたのはエゾハルゼミです。今鳴いているセミの多くはコエゾゼミやエゾゼミです。

日本には32種のセミがいます。北海道には11種のセミがいると言われますが、一番多い種はエゾハルゼミです。2番はコエゾゼミ、3番はエゾゼミ、4番にアブラゼミがあります。本州ではアブラゼミが多いようですが北海道ではめだたぬ存在です。

北海道の11種の中に「エゾ」がつくセミは、エゾハルゼミ、コエゾゼミ、エゾゼミ、アカエゾゼミ、エゾチッチゼミの5種ですが、「エゾ」がつくのでこの5種は北海道の固有種かというとそうでもありません。エゾチッチゼミ以外は本州にも生息しています。

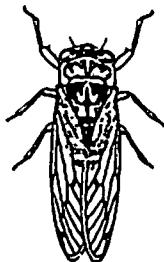
コエゾゼミとエゾゼミの特徴は次の通りです。

### ◆コエゾゼミ

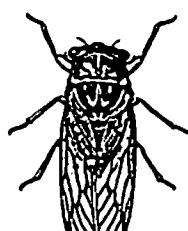
エゾゼミ、アカエゾゼミに比べて体が一段と小型です。前胸背後縁を走る黄緑帯が両側で遮断しています。

### ◆エゾゼミ

色彩の変異が多い。前胸背後縁を走る黄緑帯がつながっているところがコエゾゼミとの違いです。



コエゾゼミ



エゾゼミ

## ヤマハハコ

暦の上では立秋（8月7日）が過ぎ、植物も暑さの中で秋に向かう準備が始まり、夏の花や秋咲きの花が見え始めました。

ヤマハハコは特にめずらしい花ではありませんが、夏から秋にかけてあちこちで目にすることができます。白いふ毛の生えた葉をもつところから英名はParty everlasting（いつまでも変わらない真珠のような花）、種小名もmargaritacea（真珠状の）の意味があります。

キク科の多年草でヤマハハコ属。雌雄異株で、結実する雌性頭花をもつ株と、結実しない両性頭花の株があります。古くはハハコグサ属に分類されていましたが両性花が結実しないという特徴に注目され、現在はヤマハハコ属に独立しました。

東北地方では若葉のとき摘んで湯がき、白米に混ぜこねると毛が繋ぎの役割をして餅のようになり、餅代わりにして食するといわれています。

